

RUBeC 演習プログラム 2017 を終えて

川村 亮太

Ryota KAWAMURA

機械システム工学専攻修士課程 1年

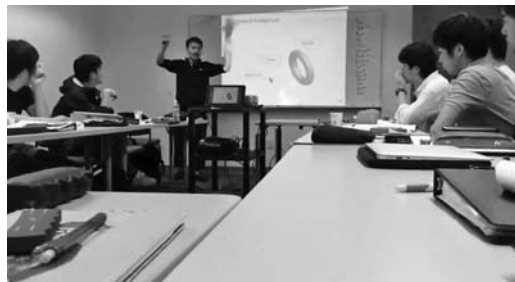


図 最終プレゼン風景

1. はじめに

私は2017年8月19日から9月4日まで、RUBeC演習プログラム2017に参加しました。そしてこのプログラムで多くのことを学びました。英語のテクニカルライティングとオーラルプレゼンテーションのスキルを向上させるための授業、UC Davisやキーエンスの大学・企業見学、ホームステイや街中での日常生活などさまざまな観点から多くのことを経験することができました。

2. 動機と到達目標

私がこのプログラムに参加しようと思った理由は第一に9月19日からの約半年間のドイツ留学に活かすためでした。そして自分の中で最低限、英語を話す事に対する抵抗をなくすことを目標として掲げ、実際この約2週間を全力で過ごしました。

3. 授業

まずテクニカルライティングの授業に関しては、主に文法に注意した文章の作成や、冠詞、前置詞、接続詞などの正しい使い方や、自分の研究に関する要旨の説明などの点に着目して授業を行いました。この授業によりこれまで気にしていなかった部分がとても重要であった事や英語の難しさについて気づかされました。

次にオーラルプレゼンテーションの授業に関しては、主に英語の発音や強調するポイントや話す際に区切るところ、プレゼンテーションをする際に大事となる点などに着目して授業を行いました。そしてこの授業により英語をスムーズに話せた時やプレゼンテーションの楽しさを知ることができ、話す際に

気をつけなければいけないポイントも学ぶことができました。

そしてこれらの授業を通して日本人にはあまりできていない部分でとても大切なことを学ぶことができました。それは、自発性です。自ら積極的に行動する能力がとても大切であると実感しました。そして保守的になって待っているだけでは何も成長することはできないと気付かされました。

4. 大学と企業訪問

私たちはこのプログラムの1週目の水曜日の8月23日にUC Davis、2週目の水曜日の8月30日にキーサイト・テクノロジーを訪問しました。

まずUC Davisに関しては、施設内全体の見学、概要についての傍聴と質問、昼食をはさんでからの実験施設の見学をしました。施設内全体の見学は現地の学生さんと通訳の方による案内の元行われました。また概要についての傍聴と質問は現地の先生から話をさせていただき気になることに対して教員、学生から質問を行いました。私は自分の研究（流体に関する研究）に関することについて質問をしました。そして実験施設の見学は実際に使われておられる計測装置を案内の元、見学させていただきました。そして感じたこととしては、施設内全体の見学では一言で言うとなればとても大きいと感じました。具体的には敷地の大きさ、学部学科の多さ、学生教員の多さに大変驚きました。また他にも施設内での移動にバスや自転車を使っている点、学生さんの上手な案内や通訳の方の英語力にも驚きました。

概要についての傍聴と質問では、私のした航空宇宙関係の教授学生さんの研究活動、使用実験施設に関する質問に対して当然のことながらその分野に関する研究も行って、小型ではあるものの風洞実験施設もあるという回答をいただき、UC Davis は自分の興味のある学問を勉強し研究できる場所でもあると感じました。そして実験施設の見学では教授学生さん共々、大変真剣に忙しく研究を行っておられるように感じました。また巨大な計測装置もあり驚きました。

次にキーサイト・テクノロジーに関しては、企業訪問として訪れたの施設内の見学をさせていただきました。見学の流れとしては、初めにキーサイト・テクノロジーのこれまでの歴史や業績を紹介してもらい、次に製品の製造過程を見学させてもらい、最後に製品の検査過程を見せていただきました。またキーサイト・テクノロジーはアメリカ合衆国カリフォルニア州サンタローゼを拠点として電気・電子計測機器の開発・製造・販売・サポートを行う世界最大規模の測定器企業です。さらに主な製品としてオシロスコープ、標準信号発生器、ネットワークアナライザ、高周波シミュレータ、ロジックアナライザなどがあります。そして感じたこととしては、キーサイト・テクノロジーのこれまでの歴史や業績の紹介では特に、これまでに数々の特許を取られていて歴史が深い点に大変驚きました。製品の製造過程の見学では正直なところ内容が難しく私では理解できない部分も多くありましたが、丁寧かつ効率よく製品を製造されている点に圧倒されました。製品の検査過程ではあらゆる状況を想定した

検査、さまざまな方法を用いた検査に驚きました。具体的には、温度や周りの電場などの環境要因を考慮した検査や製品を落とした場合など外力を考慮した検査などがありました。

大学・企業見学を通して、研究や仕事に対する姿勢、通訳の方の英語力など見習う点も多く今後の生活や研究や就職活動を改めて考え改善していく必要があると感じました。

5. 日常生活

アメリカでの生活に関しては、日本の生活とは異なる部分が多くありました。食文化、時間に対する考え方、家族との距離、友人関係、公共施設（トイレ、BART）の使い方など挙げるときりがないほど普通に生活をしているだけで考え方が異なり刺激的なことがたくさんありました。驚く点はありましたが、文化の違いを改めて考える機会になって大変良かったと思いました。

6. まとめと今後の課題

まとめとして始めにも述べましたが、このプログラムを通して多くのことを経験することができました。目標であった最低限、英語を話す事に対する抵抗はなくなることができたと感じました。また今後の生活、特にこれから始まるドイツ留学に最大限に活かしていきたいと思います。そして今後の課題として今回はやりきれなかった部分やまだまだ向上できる部分を磨いていこうと思います。最後にこのような大変貴重な経験をすることができて本当に良かったです。